

#5

8月
2026

安曇野市教育委員会だより ふるさと安曇野

基本理念 ◇ すべての人が生涯を通じて学び合い、文化のかおり高い安曇野を目指します。 ◇ からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を育みます。

安曇野市立17小中学校の学校訪問始まる

—「児童生徒・教職員が笑顔でいきいきと活躍する学校づくり」の更なる充実を目指して—

教育長 橋渡 勝也

安曇野市教育委員会は市役所本庁舎とその附属施設等に総勢約800人を超える教育部所属職員が、安曇野市の教育に関する仕事を担っています。この教育部6課のうち学校教育課では、所管する10小学校と7中学校の施設整備や維持管理のほかさまざまな面について日常的に各学校をサポートしています。また、他の課でも子育て相談や支援・青少年の健全育成、幼児との交流、地域学校協働活動の推進、自然や芸術・文化及び本に触れる場の設定、安全・安心でおいしい給食の提供など相互に密接な連携を図っています。一方、それぞれの学校には校長をはじめとした教職員が県や市から配置され、専門的な立場から学習指導や生徒指導などを行っています。

私たち教育行政に携わる者は、こうした教育の現場にできる限り足を運ぶことが大切だと考え、今年も6月から12月にかけて、教育委員と一緒に市内全17小中学校に伺います。各教室にお邪魔する時間はわずかですが、「子どもたちの表情をこの目で見て、声を聴いて、教室の空気を肌で感じたい。先生方の苦勞を直に感じ取り、努力や工夫に学びたい」と思っています。また、安全管理状況を点検するなど、学校運営上の課題を共有する機会にもしています。

この学校訪問を通して、人権が尊重され、「児童生徒・教職員が笑顔でいきいきと活躍する学校づくり」の更なる充実を目指すことを確認し、引き続き共に歩んでいきたいと思っています。

(主な議案)

- ・安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会委員の委嘱等について(承認)
- ・令和8年度 交通事故0(ゼロ)プロジェクトについて(承認)
- ・安曇野市家庭的保育事業等の認可に関する規則の一部改正について(承認)
- ・安曇野市児童クラブ利用者負担金条例の一部改正について(承認)

次回定例会の予定

・8月定例会 8月26日(水) 午後1時30分から 市役所本庁舎301会議室 申込みなく傍聴できます

交通安全

実例から考えよう 起こり得る交通事故を防ぐために (3)

<実際の目撃事例>

中学生が朝、登校のため道路左側を友人と縦列で走行中、後方から車両が近づいてきたためスピードを落とした。ややふらついた状態のところへ、ちょうど車が横に並び、自転車のハンドル右先端が、車両の左側面と接触した。車両はそのまま走り去った。接触時に自転車は転倒せず、当該生徒に怪我はなかった。登校した生徒が担任に報告し、学校は保護者へ連絡。保護者から安曇野警察署へ相談した。

(学校教育課・地域づくり課の交通安全担当者からのコメント)

この事案は、車両運転手の「当て逃げ物損事故」に相当する可能性があります。しかし、ハンドルの接触により車体に生じた傷の修理が必要となった場合には、軽車両である自転車の運転者に修理費の負担が生じる可能性も考えられます。

2026年4月施行の改正道路交通法により、自動車が走行中の自転車を追い抜く(または横を通過する)際のルールが明確化されました。目安の間隔:少なくとも1メートル以上の間隔を空けることが推奨されています。この間隔が取れない場合は、徐行(時速20～30キロメートル以下の安全な速度)で進行する義務があります。今回、自動車運転手はこのルール(側方安全間隔不保持義務等)に違反したとも考えられます。車を運転する皆さんには、朝夕の通勤時間帯は特に、自転車や歩行者の存在にも十分に気を配り、安全運転に徹していただくようお願いします。

※この内容については、学校への注意喚起として情報提供します。

子育て支援

くろざわどあい



黒沢洞合自然公園 いよいよリニューアルオープン

黒沢洞合自然公園は里山の豊かな自然とふれ合うことができるビオトープ公園です。この度拡張整備工事がしゅん工し、7月19日(日)にリニューアルオープンしました。面積が3倍ほど広がり、池や緩やかな小川、草原などのビオトープが増設され、今まで以上に多種多様な動植物を観察することができるようになっていきます。その他トイレを新設し駐車場も広がっています。この機会にぜひ訪れてみてください。公園を活用したイベントとして8月12日(水)に夜間の昆虫観察会(受付終了)、9月12日(土)には水生生物の観察会の開催を予定しています。

イベント情報などを掲載

詳細は  [こちら](#)

社会教育

市内3館で同時開催！ 企画展「望月桂 自由を扶くひと」

安曇野市美術館と安曇野市文書館、碌山美術館では、企画展「望月桂(かつら) 自由を扶(たす)くひと」を8月30日(日)まで開催中です。明科出身の画家 望月桂は、戦前には東京で労働者や芸術家のために食堂を開いて芸術運動を展開し、戦後は明科で農地改革に尽力したほか、高校の美術教師として多くの生徒に慕われました。

これまで明科の望月家に保管されてきた絵画や記録等を、現代アーティスト、大学教授、学芸員、アーキビストらが調査団を結成して研究し、企画展の開催に至りました。ひとりの人物について、3館で異なる視点からアプローチすることで多様な側面を浮き彫りにした初めての試みです。各館の持ち味を活かした展示をお楽しみください。

注目のとりぐみ

学校給食

安曇野市献立作成等検討委員会

成長期の子どもたちにとってさまざまな経験から食べ物や食事に関する知識を学び、食への興味・関心を育むことで、一生を通じて健全な食生活を送れるようにするための教育、つまり食育は大変重要です。学校給食はまさに食育の生きた教材です。

教育委員会では、献立内容の一層の充実を図るとともに安全な食材・物資の選定を目的として、「安曇野市献立作成等検討委員会」を設置しています。この委員会では、学校代表者、保護者の代表者、学校医・薬剤師会代表のほか、多くの食に関する識見者や農業生産者が加わって意見を交わします。学校給食センターでは、児童生徒の食の安全や栄養バランスを確保した上で、安曇野らしい魅力あるおいしい給食の献立の立案に役立てています。

子どもの意思を尊重する大人、判断を迫られる子ども

ちまたでは、来春の小学校入学に備えてランドセル選びがすでに始まっているようです。

「黒は男児、赤は女児」は「昔の当たり前」、「今流の当たり前」は、カラフルで様々なデザインや機能の中からお気に入り自由に選べること…。さて、家に孫たちが遊びに来るので、小さいカップアイスを用意しました。普段から緑色が好きな2歳の子は、早速「抹茶アイス」を選びます。親は「苦いかもしれないからやめたら」と言いますが譲りません。「あなたはと思う?」「どうしたいの?」という問いかけは、「子どもの意思を尊重する」上で欠かせません。一方、経験の浅い低年齢の子どもたちにとっての意思決定は感覚が頼り—これも大事な要素ですが、幼い頃から、その時々大人の経験や考えを“押しつけにならないように”伝えることは、判断力を培うためにとても大切なことではないでしょうか。

家庭でも学校でも、大人の役割や責任は極めて重要です。(ka)

感想やご意見などをお寄せください。

連絡先: 安曇野市教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
Mail: gakkoukyouiku@city.azumino.co.jp

